

# MGC TODAY

特色ある優良化学会社を目指して

## 第74期事業報告書

平成12年4月1日～平成13年3月31日



**MGC**

三菱ガス化学株式会社

# 椰子の実に託した化学の夢

「名も知らぬ遠き島より 流れ寄る椰子の実一つ」

島崎藤村『落梅集』の「椰子の実」の一節です。

遠い南の島で大きく実った「椰子の実」が、ある日大海原へと冒険の旅に出ます。

幾日か碧い海の波間を漂い、ようやくどこかの島にたどり着きます。そして、そこで芽を出し、根を張り、大きく育って、またその「椰子の実」が冒険の旅に出る。

私たち化学メーカーの事業もまた「椰子の実」と同じような一生をたどります。

化学という大海に、一つの技術が挑み、事業としての芽を出し、大きく育つ。

そして、その育った技術から、またあらたな技術が生まれ、挑戦を繰り返す。

私たちは、こんな思いを「椰子の実」のイメージに込めています。

「化学にもとづく幅広い価値の創造を通じて、社会の発展と調和に貢献します」

私たちは、企業理念をこのように定め、「夢と冒険の毎日です。」「Dreams & Adventure」の

キャッチフレーズのもと、常に、化学による新しい価値の創造に挑戦しています。

MGCのホームページをリニューアルいたしました。  
カンパニー別事業案内をはじめ、MGCの最新情報をご案内しています。  
ホームページアドレス <http://www.mgc.co.jp/>



三菱ガス化学( MGC )はその社名の通り「化学」を事業の基盤としています。化学製品はもとより、化学技術に立脚した幅広い領域で製品やサービスを生み出し、多彩に事業を展開します。価値ある素材や高機能の製品を作り出すのはもちろんのこと、地球環境の保全につながる、より環境にやさしい製品の開発、より省資源化が図れる製品やプロセスの開発など、多方面にわたって社会的価値を創造しています。便利で快適な社会、安全で調和のとれた社会の実現に貢献すべく取り組んでいます。

## 目次

---

株主の皆様へ	2
明日の地球を化学する	4
主要経営指標の推移	6
部門別営業概況	8
貸借対照表	10
損益計算書 / 利益処分	11
新規事業 / 設備投資	12
暮らしの中のMGC	13
連結主要経営指標の推移	14
会社概要 / 役員	16
株式の概要	17



株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

当社第74期(平成12年4月1日から平成13年3月31日まで)の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

## 営業の経過および成果

当期のわが国経済は、企業収益の回復に伴い設備投資が増加し、景気は緩やかに回復に向けた動きを続けました。しかしながら期の後半より、アメリカ経済の減速から景気は急速に停滞に向かいました。

化学工業におきましても、期の前半はIT関連需要が好調に推移したものの後半は減速し、収益面においては原油価格高騰の影響などもあり、引き続き厳しい事業環境となりました。

このような状況のもと、当社といたしましては、中期経営計画「MGC進化21」の実現に向け社内カンパニー制を導入し、損益と投資に関わる自己責任のもと自立的経営の確立に取り組み、収益の改善に努めてまいりました。この結果、売上高は対前期比193億1千万円増の2,288億円となり、経常利益は対前期比7億4千万円増の45億9千万円、税引後の当期利益は対前期比1億円減の23億5千万円となりました。

なお、退職給付会計につきましては、積立不足額(会計基準変更時差異)を有価証券の信託方式等により当期に一括処理いたしました。

株主の皆様への利益配当金につきましては、1株につき2円50銭とさせていただきます。これにより、中間配当金1円50銭を加えた株主の皆様への年間配当金は4円となります。

## 当社が対処すべき課題

当社は、21世紀に目指すべき事業の方向性や行動指針を明らかにするため、平成12年度を初年度とした中期経営計画「MGC進化21」を策定し、実行しています。

本中期経営計画では、計画期間中を新たな飛躍へ向けての「経営刷新期間」と位置付け、

- 1 事業と経営資源の「選択と集中」
- 2 資産効率向上による健全な財務体質の構築
- 3 新経営管理体制の構築と実効を伴う実践

という3つの基本方針を掲げ、21世紀に存在感のある「特色ある優良化学会社」となることを目指します。

「化学にもとづく幅広い価値の創造を通じて、社会の発展と調和に貢献する」という経営理念のもと、常に時代が求める「新しい価値の創造」に取り組み、顧客・株主・地域社会の皆様の信頼と満足を高めることで、グループ全体の企業価値を極大化することに努めてまいります。

「MGC進化21」初年度の状況は、有利子負債の削減は概ね計画通りに推移するとともに、固定費の削減につきましては計画を上回る成果を上げることができました。さらに、当社競争優位事業の強化・拡大、提携・合併も含めた競争力強化策の実践を積極的に推進してまいりました。

しかし、安定収益基盤の確立までは未だ途上にあると受け止めざるを得ないのも事実であり、「選択と集中」の徹底による競争優位事業の強化・拡大と不採算事業の整理・縮小を通じ、企業体質を一層強化していく必要があります。

新経営管理体制の構築につきましては、自己責任による自立的経営体制を確立するため、昨年7月に社内カンパニー制を導入いたしました。カンパニーごとのキャッシュフローに基づく投資管理システムのもと、投資に係る権限をカンパニーに委譲し、各事業をより機動的・効率的に展開していく体制を整えました。また、カンパニーの評価指標としてROA(総資産当期純利益率)を導入し、一層の資産効率化を図ってまいります。

今後は「自己責任による自立的経営体制」の深化を図る一方、前述いたしました「基本方針」に則り、「MGC進化21」を実効あるものにしてまいります。

また環境と安全への取り組みにつきましては、「環境・安全基本方針」のもとに、日常の事業活動においてレスポンシブル・ケア活動を積極的に進めております。地球環境との調和を図りつつ、保有する経営資源を活かして新たな経済価値を創造するという企業経営の原点に立ち、全社の具体的目標に向かって有機的・組織的に行動してまいります。なお、東京都大田区で当社が一時的に所有した土地において土壌汚染問題が発生しておりますが、当社といたしましては東京都に協力し、その原因究明と解決に向けて努力してまいります。

以上のような諸施策を通じ、「特色ある優良化学会社」の実現ならびに企業価値の極大化を目指す所存であります。

なお、このたび、株主総会終了後の取締役会において、大平晃が取締役会長に、私が取締役社長に選任され就任いたしました。株主の皆様には今後とも倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長

**小高 英紀**

## WDMメディアコンバータ「EEXシリーズ」

会社で、家庭で、お気に入りのホームページを閲覧する。電子メールをやりとりする。最近でこそ当たり前前の光景ですが、このような時代が来ることを10年前に予想していた人が、果たしてどれだけいたことでしょうか。こうしたインターネットを核とする情報通信量の急速な増大を支える光通信網の整備が、今、世界中で進められています。

ところで、光通信はもともと単一の波長の光を使い、その点滅によって情報を伝えていました。たくさんの情報を送るためには光の点滅を速くすればよいのですが、それには限界があります。そこで、複数の波長の光を一本のファイバに通し、全体の通信量を増やす波長多重(WDM)技術が発達してきました。今では国と国、大都市と大都市を結ぶ長距離の幹線通信網の多くに、高密度なWDM伝送システムが導入されています。

しかし、高密度なWDMシステムは価格が高く、機器構成が大掛かりなものとなり、維持管理にも人手とコストがかかります。そのため、大手の通信事業者などが管理する幹線通信回線以外にはおいそれと使うことができません。インターネットの爆発的な普及が続く中、エンドユーザーが扱う情報量は急速に増えつつあります。今後は幹線網のみならず、支線網、ひいては一般家庭に至る末端網まで、低コストで取り扱いが簡単なWDM装置が必要になってくるでしょう。

そんな期待に応えるのが、MGCが開発したWDM伝送装置「EEXシリーズ」です。安価で使い勝手がよく、既存のネットワークを大幅に改造する必要もないことから、企業の工場や研究所、病院や大学などへの導入が進んでいます。

それにしても、「化学会社がなぜ光通信分野に？」という疑問をお持ちの方もいるでしょう。その秘密はWDM装置の核となる部品である光導波路にあります。MGCは10年以上も前に、化学メーカーとしての強みを生かし、ポリカーボネート樹脂というプラスチックを使った光導波路を開発しました。この光導波路を用いた機器を研究する中から「EEXシリーズ」の技術が育ってきたのです。

化学という大海を漂う小さな実が、流れついた別の土地(分野)で新しい芽を出す。「EEXシリーズ」には、そんな化学会社の夢と醍醐味が詰まっています。



EEX-20000

### レスポンスブル・ケア新中長期計画を策定



グリーン購入法や各種のリサイクル関連法が相次いで施行されるなど、社会の各層において循環型社会の形成に向けた取り組みが進められています。このような中、MGCは平成9年の「レスポンスブル・ケア実施宣言」以来、事業運営に

立脚した自主的な環境安全活動を実施してきました。

このレスポンスブル・ケア活動をさらに進化させるため、MGCは昨年、平成17年を目標年度とする新たな中長期計画を策定しました。その骨子は、さらなる環境安全の自主的改善と、本格的にスタートした循環型社会形成の推進への寄与です。新しい計画の初年度となる平成13年は、MGCのこれまでの活動を社会に公表し、社会からより信頼される企業になれるよう、次の活動を実施していきます。

- 1)PRTR(化学物質管理促進法)対策の推進による環境改善
- 2)関係会社におけるレスポンスブル・ケア活動の推進
- 3)レスポンスブル・ケア・レポート(環境報告書)の発行
- 4)グリーン(エコマーク商品)購入の推進

なお、山北工場・水島工場・浪速製造所が新たにISO14001の認証を取得し、これで全工場における認証取得が完了しました。

#### 用語解説 PRTRとは？

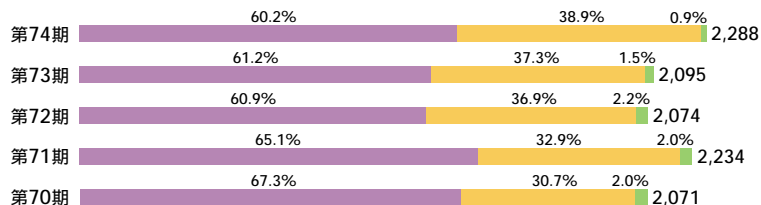
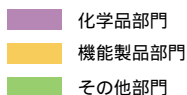
PRTR( Pollutant Release and Transfer Register )とは、「環境汚染のおそれのある化学物質の、環境中への排出量または廃棄物としての移動量を登録し、公表する仕組み」のことです。一般には、事業者の報告などにもとづき、行政が化学物質の排出量または廃棄物としての移動量のデータを収集し、収集したデータを目録などの形に整理し、これを広く公表する形をとるものです。

## 主要経営指標の推移

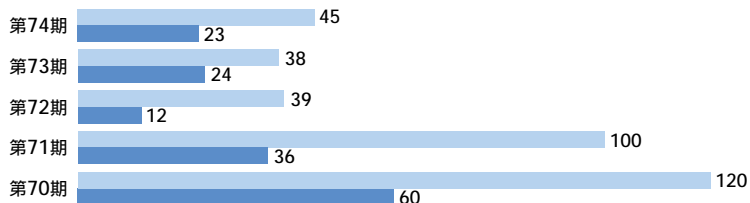
	平成9年3月期 (70期)	平成10年3月期 (71期)	平成11年3月期 (72期)	平成12年3月期 (73期)	平成13年3月期 (74期)
<b>経営成績</b>					
売上高(億円)	2,071	2,234	2,074	2,095	2,288
営業利益(億円)	107	76	13	1	50
経常利益(億円)	120	100	39	38	45
当期利益(億円)	60	36	12	24	23
1株当たり当期利益(円)	12.08	7.35	2.43	4.95	4.87
潜在株式調整後1株当たり当期利益(円)	11.98	7.34	-	-	-
株主資本当期利益率(%)	4.4	2.7	0.9	1.9	1.8
総資本経常利益率(%)	3.8	2.9	1.1	1.1	1.3
売上高経常利益率(%)	5.8	4.5	1.9	1.8	2.0
<b>財政状態</b>					
総資産(億円)	3,237	3,483	3,538	3,537	3,409
株主資本(億円)	1,367	1,378	1,365	1,324	1,323
株主資本比率(%)	42.2	39.6	38.6	37.4	38.8
1株当たり株主資本(円)	274.28	276.48	273.77	272.78	273.65
資本金(億円)	419	419	419	419	419
発行済株式総数(千株)	498,622	498,622	498,622	485,478	483,478
<b>配当状況</b>					
1株当たり年間配当額(円)	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0
配当金総額(億円)	24	24	24	24	19
配当性向(%)	41.4	68.1	206.1	100.1	82.1
株主資本配当率(%)	1.8	1.8	1.8	1.9	1.5
<b>その他</b>					
設備投資額(億円)	186	219	280	196	141
減価償却費(億円)	101	112	121	135	135
研究開発費(億円)	120	120	110	105	106
売上高研究開発費比率(%)	5.8	5.4	5.3	5.0	4.7
従業員数(人)	3,541	3,534	3,510	3,515	3,444



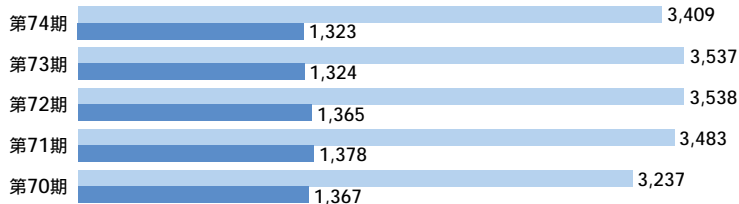
## 売上高 (単位:億円)



## 経常利益・当期利益 (単位:億円)



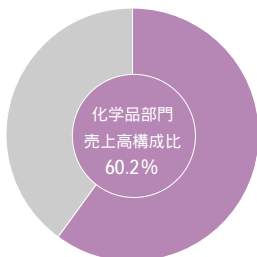
## 総資産・株主資本 (単位:億円)



## ROA(総資産当期利益率) (単位:%)



化学品部門



化学品部門の当期の売上高は、対前期比93億8千万円増の1,376億9千万円となりました。

メタノール・アンモニア系製品では、メタノールの国際市況が上昇し、誘導品のホルマリン、アミン系製品ともども売上高が増加しました。アンモニア系製品の売上高は横這いで推移

しました。メタクリル酸メチル及びエステル系製品は、販売数量が増加し売上高が増加しました。多価アルコール類は輸入品の攻勢もありましたが、売上高は僅かに増加しました。

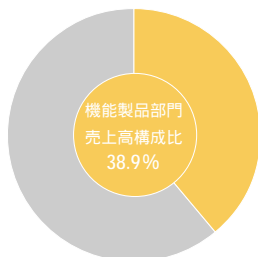
キシレン系製品では、メタキシレンジアミンやMXナイロン等のメタキシレン誘導品が拡大し、売上高が増加しました。パラキシレンとその誘導品である高純度テレフタル酸は、販売数量・価格ともに上昇し、売上高が増加しました。フタル酸系可塑剤は、チッソ(株)との合併会社に事業を移管したことにより売上高が減少しましたが、その原料である無水フタル酸の売上高は増加しました。

工業薬品類では、過酸化水素は紙パルプ業界の塩素代替需要により販売数量が増加しましたが、販売価格が下落して売上高は減少しました。ハイドロサルファイトは販売数量の減少により、また、過硫酸塩類は販売価格の下落により、それぞれ売上高が減少しました。水加ヒドラジンは需要の低迷により売上高が減少しました。

化学品部門売上高(単位:億円)

第74期	1,376
第73期	1,283
第72期	1,263
第71期	1,453
第70期	1,394

## 機能製品部門



機能製品部門の当期の売上高は、対前期比109億9千万円増の890億5千万円となりました。

エンジニアリングプラスチックは、日本国内、アジアを中心とした海外ともに需要が好調で、販売数量・価格ともに上昇し、売上高は増加しました。

プリント配線板用材料は、IT関連需要の拡大に後半かげりが見られたものの、販売数量が増加し売上高が増加しました。

食品の鮮度保持等に使用される脱酸素剤「エージレス」の売上高は横這いで推移しました。

電子工業用薬品類は、販売数量が増加したものの販売価格が下落し、売上高は横這いとなりました。

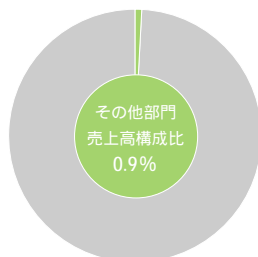
レンズモノマーは、販売数量が減少し、売上高が減少しました。

情報機能材料は、前期から続く光通信関連需要の世界的な拡大を受け、磁性ガーネット単結晶が好調に推移し売上高が増加しました。

機能製品部門売上高(単位:億円)



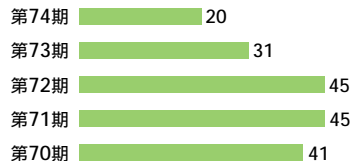
## その他部門



その他部門の当期の売上高は、対前期比10億6千万円減の20億6千万円となりました。

技術販売は、メタノール法各種ガス製造技術等の販売がありました。前期に比べ売上高は減少しました。地熱事業の蒸気販売は横這いで推移しました。

その他部門売上高(単位:億円)



# 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	平成12年3月期	平成13年3月期
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>183,098</b>	<b>141,971</b>
現金・預金	16,067	10,572
受取手形	9,283	10,288
売掛金	58,169	75,509
有価証券	53,999	1,200
棚卸資産	34,109	36,154
その他	11,468	8,242
<b>固定資産</b>	<b>170,609</b>	<b>198,930</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>130,445</b>	<b>123,615</b>
建物・構築物	36,120	36,934
機械装置	58,135	56,824
土地	16,037	16,032
その他	20,152	13,821
<b>無形固定資産</b>	<b>1,142</b>	<b>1,048</b>
<b>投資等</b>	<b>39,022</b>	<b>74,266</b>
投資有価証券	22,547	54,691
子会社株式・出資金	10,788	12,915
その他	5,686	6,657
<b>資産合計</b>	<b>353,708</b>	<b>340,901</b>

(単位:百万円)

科 目	平成12年3月期	平成13年3月期
<b>(負債の部)</b>		
<b>流動負債</b>	<b>118,388</b>	<b>122,495</b>
支払手形	2,695	3,526
買掛金	30,197	35,566
短期借入金	62,506	49,709
その他	22,988	33,691
<b>固定負債</b>	<b>102,892</b>	<b>86,101</b>
社債	50,000	40,000
転換社債	1,428	-
長期借入金	35,484	37,584
退職給与引当金	14,456	-
退職給付引当金	-	7,399
その他	1,523	1,117
<b>負債合計</b>	<b>221,280</b>	<b>208,597</b>
<b>(資本の部)</b>		
<b>資本金</b>	<b>41,970</b>	<b>41,970</b>
<b>法定準備金</b>	<b>42,201</b>	<b>42,396</b>
<b>剰余金</b>	<b>48,255</b>	<b>47,937</b>
(うち当期利益)	(2,458)	(2,355)
<b>資本合計</b>	<b>132,427</b>	<b>132,303</b>
<b>負債・資本合計</b>	<b>353,708</b>	<b>340,901</b>

## 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	平成12年3月期	平成13年3月期
<b>売上高</b>	<b>209,503</b>	<b>228,817</b>
売上原価	178,327	193,577
販売費及び一般管理費	31,009	30,178
<b>営業利益</b>	<b>166</b>	<b>5,060</b>
営業外収益	9,603	5,265
営業外費用	5,925	5,733
<b>経常利益</b>	<b>3,843</b>	<b>4,593</b>
特別利益	-	11,509
特別損失	1,592	13,518
<b>税引前当期利益</b>	<b>2,251</b>	<b>2,584</b>
法人税、住民税及び事業税	477	2,547
法人税等調整額	684	2,318
<b>当期利益</b>	<b>2,458</b>	<b>2,355</b>
前期繰越利益	3,131	5,670
過年度税効果調整額	1,258	-
税効果会計適用に伴う 準備金等取崩高	3,540	-
中間配当額	1,246	725
利益準備金積立額	124	72
利益による自己株式消却額	2,736	539
<b>当期末処分利益</b>	<b>3,764</b>	<b>6,687</b>

## 利益処分

(単位:円)

科 目	平成13年3月期
<b>当期末処分利益</b>	<b>6,687,975,919</b>
探鉱積立金取崩額	17,641,304
固定資産圧縮積立金取崩額	131,422,412
特別償却準備金取崩額	78,858,757
海外投資等損失準備金取崩額	104,090,433
<b>計</b>	<b>7,019,988,825</b>
これを次のとおり処分いたします。	
利益準備金	121,000,000
利益配当金	1,208,690,130
(普通配当 1株につき)	(2円50銭)
圧縮特別勘定積立金	252,117,395
<b>計</b>	<b>1,581,807,525</b>
<b>次期繰越利益</b>	<b>5,438,181,300</b>

(注)平成12年12月8日に725,212,523円(1株につき1円50銭)の中間配当を実施いたしました。



環境事業

東京工場で、紙や木、プラスチックなどの廃棄物を原料としてRDF(ごみ固形燃料)を製造する設備が運転に入りました。この設備は、原料となる廃棄物の熱量をあらかじめ自動分析し、その値をフィードバックする熱量帰還形のシステムを採用しており、安定した品質で高カロリーの固形燃料を製造することができます。製造されたRDFは工場のエネルギー源として利用するほか、外販もします。

また、環境事業を行うため、新たにエムジーシーエコファシリティー(株)を設立しました。新会社は緑化や資源回収物の再生、廃棄物処理などの環境維持事業を行うほか、工場内の複数の事業体へのインフラ供給や維持管理業務を一手に引き受けます。これらによりさらなる省資源と環境負荷の低減を進め、将来的には環境リサイクル品の開発事業なども手掛けていく予定です。

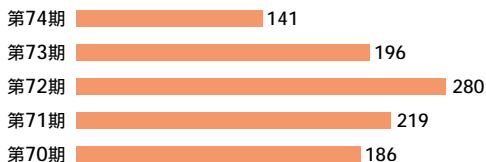


当期建設中の主要設備としては、鹿島工場のポリカーボネート樹脂製造設備の増設があります。ポリカーボネート樹脂は耐衝撃性や透明性に優れた高機能なプラスチックとして幅広い分野で使用されています。最近ではコンパクトディスク向けをはじめとして需要が大きく伸びています。この需要拡大を見込んで、70,000トン/年の製造設備を建設しています。この増設が完成すると、鹿島工場は既存の設備を含め100,000トン/年の生産能力を持つこととなります。

また鹿島工場では過酸化水素製造設備の増設工事が完了し、50,000トン/年が増強されました。なお、この新設備は完成後、日本パーオキサイド(株)との合弁会社である共同過酸化水素(株)へ資産譲渡しました。

当期の設備投資額はその他のものも含め、総額141億円となりました。

設備投資額(単位:億円)



## より良い地球の明日に



### 地熱発電用蒸気

火山列島ニッポンの地下に眠るマグマ。この膨大なエネルギーの一部を、蒸気という形で取り出して有効活用するのが地熱発電です。地熱は石炭や石油と違い枯渇することがなく、二酸化炭素の排出量も少ないことから、クリーンエネルギーとして近年クローズアップされています。MGCは三菱マテリアル(株)との合併会社である八幡平地熱(株)を通じて、地熱発電所向けに蒸気を供給しています。

## 生活の中の身近な化学



### 脱酸素剤「エージレス」

切り餅や珍味、お土産品など、包装食品の中によくその姿を見かける脱酸素剤「エージレス」。酸素を吸収することで食品の劣化を防ぎます。長年にわたり食卓に「鮮度」と「おいしさ」をお届けしてきた「エージレス」は小袋型をはじめとしてラベル型やカード型などその形態も豊富。最近では、食品のみならず医薬品や医療用具、化粧品などの保存にも使用され、ますます活躍の場を広げています。

## 豊かで快適な暮らし



### 芳香族アルデヒド

手や顔を洗うときに漂う心地よい花の香り。実はこれ、せっけんに含まれる合成香料のにおいです。その原料となっているのがMGCの芳香族アルデヒド。「芳香族」の名が示す通り、シクラメンやスズランなどの香りを化学的に作りだす素になっているのです。超強酸触媒を利用したMGCならではの独自技術が、こうしたユニークな製品の提供へと結びついています。

## 連結主要経営指標の推移

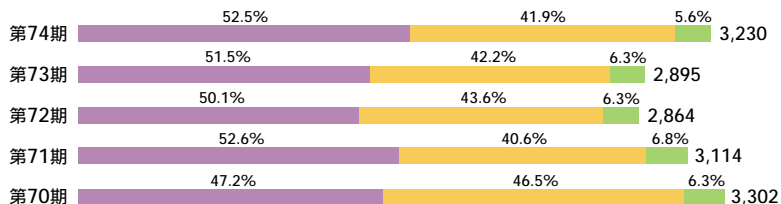
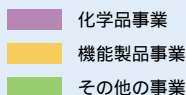
	平成9年3月期 (70期)	平成10年3月期 (71期)	平成11年3月期 (72期)	平成12年3月期 (73期)	平成13年3月期 (74期)
<b>連結経営成績</b>					
売上高(億円)	3,302	3,114	2,864	2,895	3,230
営業利益(億円)	187	175	76	52	121
経常利益(億円)	156	149	104	73	136
当期純利益(億円)	111	63	67	41	72
1株当たり当期純利益(円)	22.36	12.73	13.55	8.40	15.07
潜在株式調整後1株当たり当期純利益(円)	21.89	12.69	13.51	8.39	15.02
株主資本当期純利益率(%)	7.0	3.8	4.0	2.4	4.2
総資本経常利益率(%)	3.3	3.1	2.2	1.5	2.8
売上高経常利益率(%)	4.7	4.8	3.6	2.5	4.2
<b>連結財政状態</b>					
総資産(億円)	4,873	4,794	4,758	4,810	4,869
株主資本(億円)	1,635	1,674	1,720	1,727	1,752
株主資本比率(%)	33.6	34.9	36.2	35.9	36.0
1株当たり株主資本(円)	327.95	335.88	345.07	355.77	362.54
<b>連結キャッシュ・フローの状況</b>					
営業活動によるキャッシュ・フロー(億円)	-	-	-	166	155
投資活動によるキャッシュ・フロー(億円)	-	-	-	178	123
財務活動によるキャッシュ・フロー(億円)	-	-	-	74	126
現金及び現金同等物期末残高(億円)	-	-	-	420	316
<b>その他</b>					
連結子会社数	23	23	24	25	27
持分法適用非連結子会社数	0	1	1	0	0
持分法適用関連会社数	8	9	11	12	11

連結キャッシュ・フローの状況は平成12年3月期より新たに開示項目といたしました。



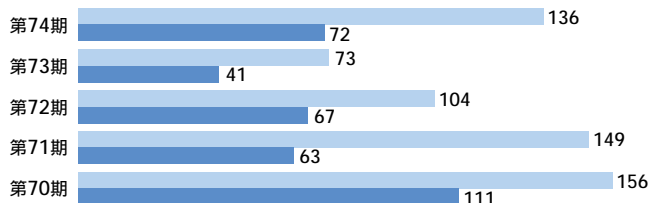
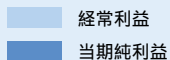
## 売上高

(単位: 億円)



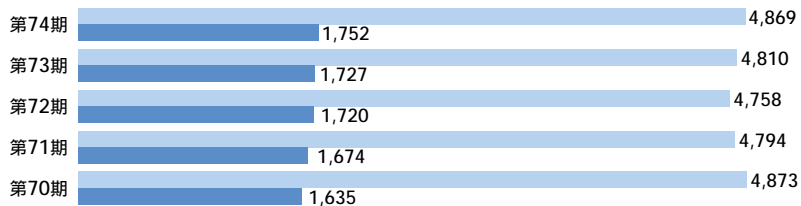
## 経常利益・当期純利益

(単位: 億円)



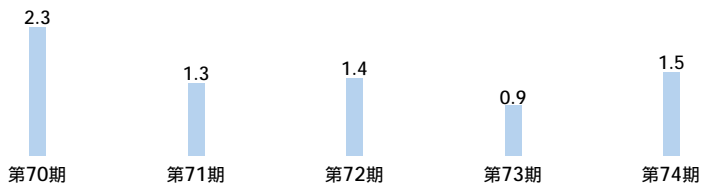
## 総資産・株主資本

(単位: 億円)



## ROA(総資産当期純利益率)

(単位: %)



**社名**

三菱ガス化学株式会社(登記社名:三菱瓦斯化学株式会社)  
MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

**コーポレートシンボル**



**本社所在地**

〒100-8324 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル

**事業所**

営業所:大阪支店、名古屋支店、福岡営業所  
研究所:総合研究所、東京研究所、新潟研究所、  
平塚研究センター  
工場:東京工場、新潟工場、水島工場、四日市工場、  
大阪工場、山北工場、鹿島工場

**主要取引銀行**

(株)東京三菱銀行 三菱信託銀行(株)  
農林中央金庫 (株)日本興業銀行 (株)横浜銀行

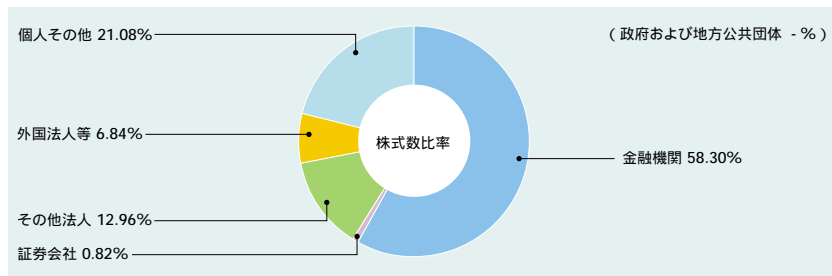
取締役会長	西川 禮二	[代表取締役]
取締役社長	大平 晃	[代表取締役]
専務取締役	今井 靖夫	[代表取締役]
専務取締役	東郷 静雄	[代表取締役]
常務取締役	池田 幸男	
常務取締役	尾方 康紀	
常務取締役	加藤 泰久	
常務取締役	小高 英紀	
常務取締役	正木 定男	
常務取締役	中村 博海	
取締役	渡部 博	
取締役	川木 隆雄	
取締役	藤森 正也	
取締役	高見澤雄次	
取締役	井上 六郎	
取締役	田中 徹	
取締役	五島 歸一	
取締役	喜嶋 安彦	
取締役	荻野 富弘	
取締役	小松 俊夫	
監査役	大塚 貞夫	[常勤]
監査役	廣山 忠亮	[常勤]
監査役	伊藤 秀嗣	[常勤・社外]
監査役	田口 弥	[非常勤・社外]

(平成13年3月31日現在)

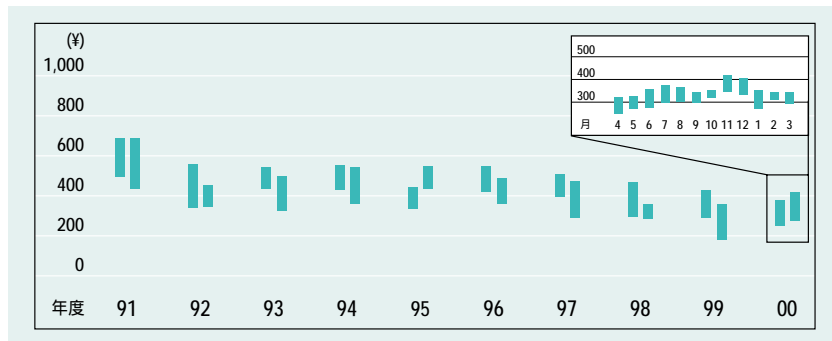
# 株式の概要

上場証券取引所	東京・大阪・名古屋 各証券取引所第一部		
発行済株式総数	483,478,398株		
株主数	47,813名		
大株主	日本生命保険相互会社	32,006千株	6.6%
	明治生命保険相互会社	23,979千株	5.0%
	株式会社東京三菱銀行	23,389千株	4.8%
	三菱信託銀行株式会社	22,393千株	4.6%
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	15,638千株	3.2%
	株式会社日本興業銀行	15,183千株	3.1%
	株式会社横浜銀行	13,711千株	2.8%
	野村信託銀行株式会社投信口	13,677千株	2.8%
	農林中央金庫	10,053千株	2.1%
	旭硝子株式会社	9,671千株	2.0%

## 所有者別分布状況



## 株価チャート



## 株式についてのご案内

決算期 .....	3月31日
定時株主総会 .....	6月下旬
同総会権利行使株主確定日 .....	3月31日
利益配当金支払株主確定日 .....	3月31日
中間配当金支払株主確定日 .....	9月30日
株券交付手数料 .....	1枚につき200円(消費税・別)
1単位の株式数 .....	1,000株
公告掲載新聞 .....	東京都において発行する日本経済新聞
名義書換代理人 .....	三菱信託銀行株式会社
同事務取扱場所 .....	〒100-8212 東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同事務取次所 .....	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
電話お問合わせ .....	〒171-8508
郵便物送付先 .....	東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5391-1900(代表)

住所変更、配当金振込指定・変更、単位未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っております。

単位未満株式の買取請求について

単位未満株式の売却をご希望の場合(買取請求)は、名義書換代理人にてお取扱いいたします。ただし、財団法人証券保管振替機構に株券を預託されている場合には、預託窓口の証券会社にお申し出ください。

**MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.**

ホームページアドレス <http://www.mgc.co.jp/>